

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2775501071
法人名	医療法人 貴島会
事業所名	グループホームノーブル
訪問調査日	平成 20 年 6 月 4 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 18 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2775501071
法人名	医療法人貴島会
事業所名	グループホームノーブル
所在地	八尾市楽音寺6丁目45番地 (電話) 072-940-1499

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号
訪問調査日	平成20年6月4日
評価確定日	平成20年7月18日

【情報提供票より】平成20年4月28日事業所入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年7月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13人
利用定員数計	18 人
常勤	8 人
非常勤	5 人
常勤換算	8.4

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	44,500 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( ) 円	〇 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 〇無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	月額 円

### (4) 利用者の概要(7月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	65 歳		99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	貴島病院本院 吉崎歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

生駒山麓に近く、田畑も残る静かな古い住宅地に位置し、外観にも落ち着いた雰囲気のあるホームである。開所以来8年近く、職員の異動がなく、当時からの入居者と共に年月を経た様々な経験の積み重ねを活かして、入居者の高齢化・重度化に伴って求められるこれからの質の高いサービスの提供に努めている。地域密着の意義をよく理解し、理念の一つとする“家族・地域との連携”に向けての、周辺への働きかけにも工夫・努力を重ねている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「ホームだよりの発行」について、平成19年4月から写真つきのホーム便りを季刊している。「法人内外の研修記録整備と全職員の共有と活用」については、研修以外の諸種記録に閲覧箇所を設けてその共有を図り、ミーティングなどで活用している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	数人の常勤職員が、各項目について意見を出し合い、それを主任が纏めたものであるが、夫々の気づきを促し良い刺激になったとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の会議を催行し、ホームの現状や取り組みを報告している。又、地域の代表、入居者とその家族、市からの担当者が毎回参加し、提言や助言は少ないながらも、グループホームが地域に根ざす(溶け込む)意義を見出せている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用料支払いを毎月現金によるものとして家族の面会を促し、この機会を捉えて意見・苦情を訊くとする態勢をとっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者の高齢化・重度化による状態変化が、地域へ出向いての各種行事への参加を難しくしている。そこで、ホームでのイベントに近隣者を招待したり、併設の老健施設との協働行事の幾つかを通じて地域との交流を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の柱の一つに、家族・地域との連携に努めますを明示し、地域におけるグループホームの存在意義と役割について認識を保持している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を大書して玄関横の壁面に掲げ、日々の実践にも振り返りの原点としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の高齢化・重度化に伴い、外出などにも車椅子使用や1:1介助の必要度が高くなり、地域行事への参加は年々難しくなりつつある。駐車場スペースを地域行事に提供、ホームでのイベントに近隣住民を招待するなどの努力を続けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価調査報告書を全員が閲覧し、改善点の共有を図っている。今回については、数人の職員が各項目について意見を出し、これを主任がまとめることにより課題についての共有が図られたとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催で、地域の老人会、民生委員、入居者とその家族が毎回参加している。地域でその人らしく生活できる様、意義を説明している。又、市の担当者にも気兼ねなく質問も出来ている。	○	社会福祉協議会・地域包括支援センターなどの助力を得て、地元住民の参加拡大を図るとともに、念願の保健所関係との連携を視野にいたした地域推進会議の充実・活用を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会から月に1回の訪問があり、情報提供・助言を得るなどの良い関係ができています。市担当者とは、必要時に適宜交流を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回評価で課題となっていたホームだよりを、平成19年4月より刊行し家族との交流を深めている。また、毎月の利用料支払いを現金払いとすることで、家族の来所を促し、その機会を活かして種々の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はあるが、投書は皆無である。家族の来所時に意見を聞くべく丁寧な対応を心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	産休あけの職員復帰もあり、開所以来の職員の定着により馴染みの関係は一層深まっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護支援専門員を主とした各種の研修に参加し、研修時の資料・報告書を必ず閲覧している。介護職についても、シフトの許す限りの研修参加を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市によるグループホームの研修会に参加、情報交換・交流に努めている。今後、相互訪問の機会も得たいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	近年は緊急性を帯びた入居者があり、急激な環境変化によるダメージをなるべく少なくするよう、職員間の話し合いを密にしながらサービスを行うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添い→コミュニケーション作り→個性の把握について、休憩時間などに早く、的確に情報交換をおこない世話しすぎる事の無く、自発性を大事にした信頼関係を築くよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	履歴からの慎重な推測や日常の会話・行動などからの発信に留意することにより、希望や意向を的確に把握し、常に個性に関心を寄せる努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット毎の介護支援専門員を中心に、主治医や家族との話し合いを重ねての計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しを実施。日々の職員間の情報交換に努め、必要に応じたカンファレンスによる見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人を母体とする“医療”への迅速・適切な支援を行っている。同法人の病院からの栄養士による栄養指導教室の開催、法人間の施設への紹介などを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院へ月1回の同行受診を慣行化している。受診科のないものは家族同行を条件としているが、緊急・その他必要に応じての支援はしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明に、緊急時の対応、重度化対応及び看取りに関する指針を添付し同意を得ている。 現在 看取りについて経過観察中の入居者がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に排泄介助、入浴介助には言葉かけなどに細心の注意を払っている。 個人情報に関する記録管理も充分になされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢化、重度化するなかで、個人的な思いや希望を表し難くなっているが、細やかな観察を行うことでその人のペースに沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常では、やる気と可動範囲を確かめながら、食事準備や後片付けを一緒にしている。重度化により一般的な外食は無理なので、実習生が居る時の併設病院の食堂へ出かけたり、弁当を取り寄せるなどの変化を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	医師の指導により午前中に1時間ほど入浴する1人以外は、1, 2階隔日に午後に入浴としている。拒否する人もあるが、誘導の工夫や清拭で対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	高齢化、重度化によりゲームやレクリエーションが出来にくくなっている。日常生活での役割については、個人のペースに合わせたもので支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1:1若しくは車椅子での対応が多くなってきたので、外出範囲は限られるが、社会性の保持も重要として、買い物にも出来るだけ出かけるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は勿論のこと、玄関にも施錠は無い。玄関出入りにはセンサーによるチャイムでさり気ない見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員の緊急連絡網を作成し、年2回の避難訓練を行っている。訓練時に近隣への声かけはしているが、一層の協力が得られるよう努力したいとしている。スプリンクラーの設置については考慮中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量チェックは行っているが、水分チェックの管理については今後の協議対象としている。併設病院の栄養管理士によるチェックをうけている。体調にあわせての粥食、オジヤ食の用意もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな環境に在って、食堂などの採光も申し分なく、シンプルながらも季節感をもたせた造りに、職員の感性と工夫が感じられる。 浴室・トイレも清潔に保持されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症なるが故の簡素な居室もあるが、持込にダンスや仏壇などがあり、夫々に個性豊かな居室風景である。		